

# ひとり静か



ヒトリシズカ



ミヤマオダマキ (植物図鑑より)

ヒトリシズカは四月に日本中で咲く花のようですが、私はまだこの花を見たことがありません。薄幸の美女、静御前の舞姿をイメージして、このように命名された花のようです。目を引くような華やかな美しさはなく、地味ですが、楚々として、繊細で、清潔感があります。どんな匂いがするのでしょうか。

静御前は、自身の名の しず を賤（身分の低い）、倭文（麻布）という言葉をかけて、

しずやしず しずのおだまき くりかえし むかしをいまに なすよしもがな

と愛する人、義経を思って歌い、舞ったと言われています。人質となり、不安と淋しさ、また、希望をもてず、悲しみをぬぐえなかったものの、舞いを命じられ、堂々と、美しく舞ったことでしょう。オダマキは、5月頃から咲く花で、クルクルまわる糸車の形をしていて、その姿は端正で気品に満ちています。

「静か」という言葉は、控えめで、抑制のきいた、地味なイメージ、損なイメージを連想しますが、聖書の中では、非常に大事な、「神のありさま」、「人間の信仰の姿勢」の言葉として用いられています。

最初の、最大の預言者と言われたエリヤが、迫害を恐れて逃げ惑い、苦しみながら、神の声を求めて、尋ね歩きました。どこで、どのように、聞くことができたでしょう。非常に激しい風の中にも、地震の中にも、火の中にも神はおられず、

火の後に、**静か**にささやく声が聞こえた。（列王記上 19：12）

とあります。「ここで何をしているのか」とエリヤに問いかけ、エリヤの行くべき道を指し示し、迫害があっても、必ず神は「神に従う者」を残すとの約束を、静かなささやく声でエリヤに伝えたのです。

また、イザヤ書に

お前たちは、立ち帰って **静か**にしているならば救われる。

安らかに信頼していることにこそ力がある。（イザヤ30：15）

と、神さまの前に立つ時の姿勢として、静かであることが大事だと記されています。

静かにして、静かな声を聞く。このことを心にとめたいと思います。（2014.4.30）